

2-6 東北地方における地殻変動連続観測 —歪変化, 1984年4月~1991年1月—

Continuous Observation of Crustal Deformation in the Tohoku District
— Strain Change for the Period from April, 1984 to January, 1991 —

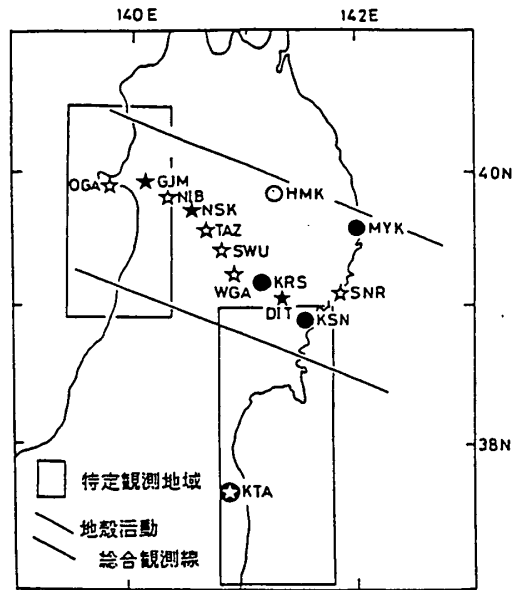
東北大学 理学部

Faculty of Science, Tohoku University

東北大学が東北地方に展開している地殻変動連続観測点のうち, 計器長15m以上の石英管伸縮計が設置されている観測点における歪変化について報告する。第1図に観測点配置を示す。第2図は伸縮計のデータから計算された歪の主な成分である。上から南北, 東西方向の線歪及びせん断歪 (ϵ_{NS} , ϵ_{EW} , γ_{NE}), 面積歪 (Δ), 最大せん断歪 (γ_{max}) 及び日別降水量である。期間は1984年4月から1991年1月までである。黒沢尻 (KRS), 気仙沼 (KSN), 宮古 (MYK) の各観測点では年周変化が顕著であるため, 三品・他 (1990)¹⁾の方法により平年値を取り除いた結果を示してある。

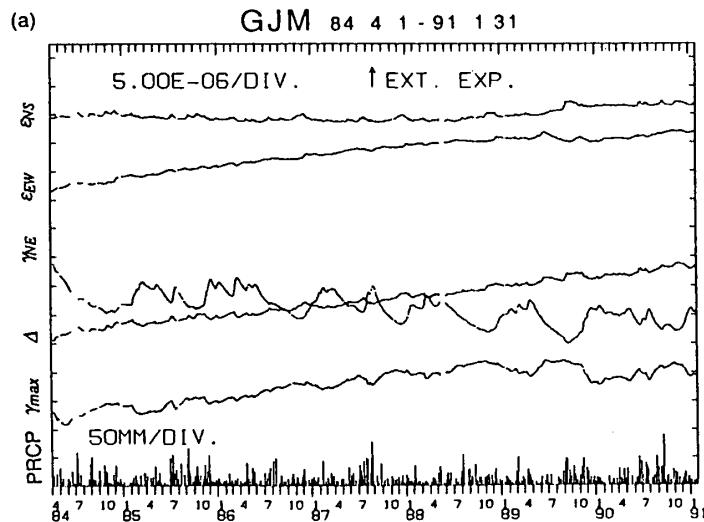
参 考 文 献

- 1) 三品・他: 地殻変動連続観測にあらわれた年周変化について (続報), 日本測地学会第74回講演会要旨 (1990), 150-151.



第1図 観測点配置図。●印は年周変化が顕著な観測点，○印は融雪時のみの変化が明瞭な観測点，⊙印は降雨時の変化が回復しない観測点，☆印は全ての歪成分で降水の影響がみられる観測点，★印は一部の歪成分で降水の影響が小さい観測点を示す

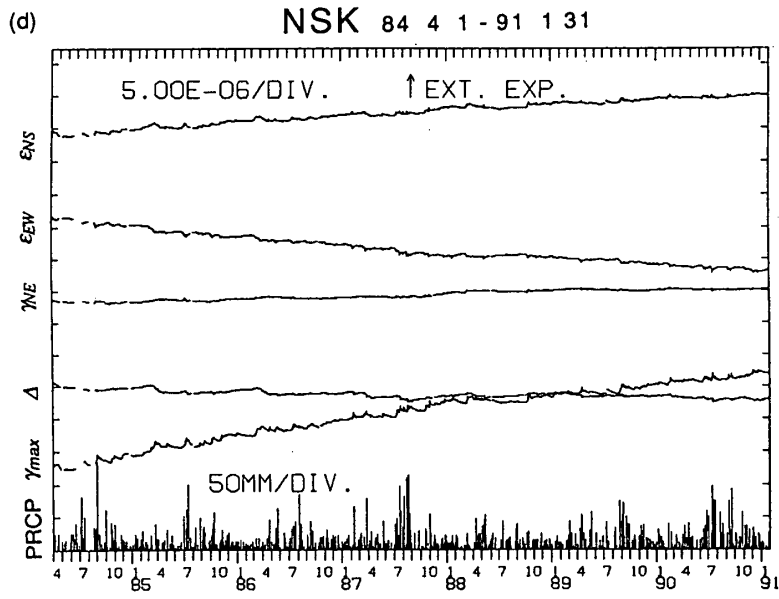
Fig. 1 Location of observation stations and characteristics of strain variations. Symbols, ●, ○, ⊙, ☆ and ★ indicate stations where annual component is dominant, effects of thawing is dominant, strain changes due to rainfall remain as DC offset, and rainfall effects are clear in all strain components and in a few components, respectively.



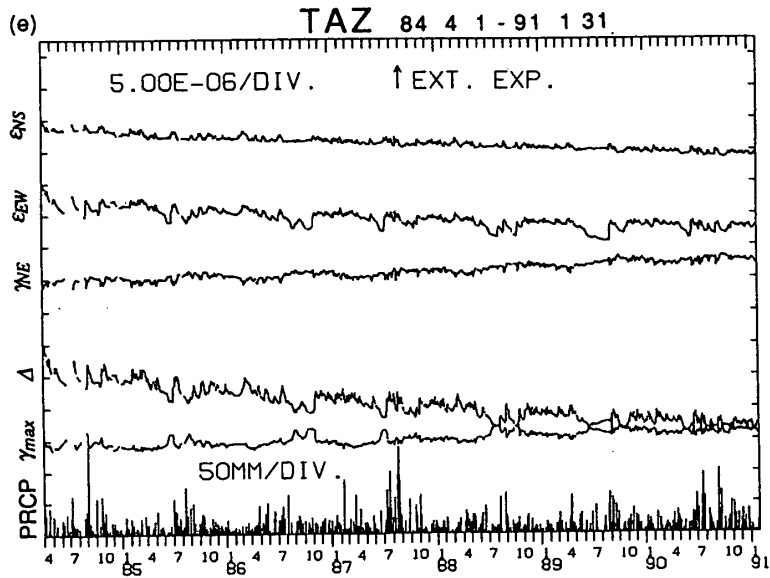
(a) 五城目 (GJM)

第2図 地殻変動観測所の石英管伸縮計により観測された歪変化 (1984年4月～1991年1月)。黒沢尻 (KRS)，気仙沼 (KSN)，宮古 (MYK) の各観測点については平年値を取り除いた結果を示してある

Fig. 2 Strain changes observed by extensometers for the period from April, 1984 to January, 1991. (a) GJM, (b) OGA, (c) NIB, (d) NSK, (e) TAZ, (f) SWU, (g) HMK, (h) WGA, (i) KRS, (j) DIT, (k) KSN, (l) SNR, (m) MYK, (n) KTA. For KRS, KSN and MYK, the normal values of annual variations are subtracted.



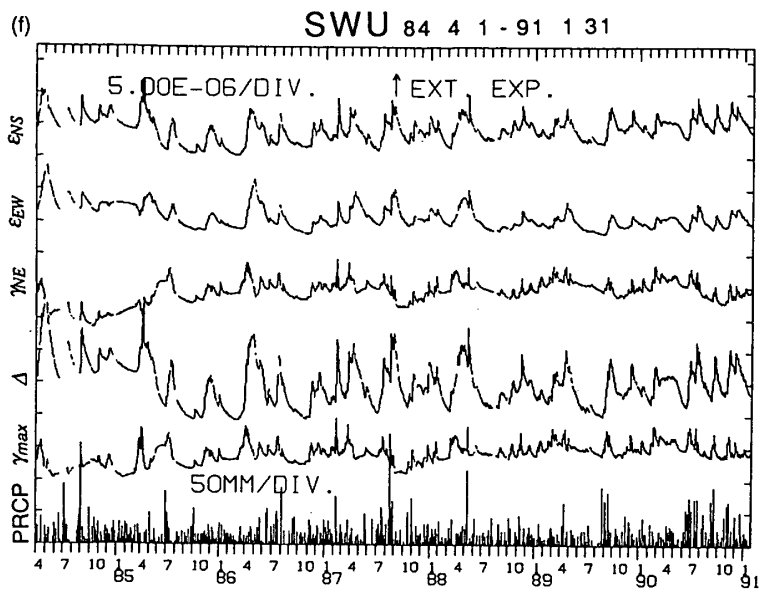
(d) 西木 (NSK)



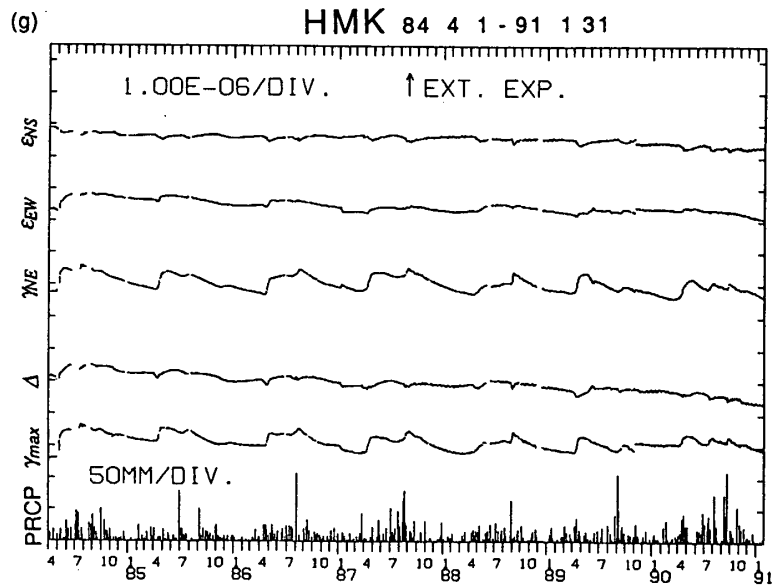
(e) 田沢湖 (TAZ)

第2図 つづき

Fig. 2 (Continued)



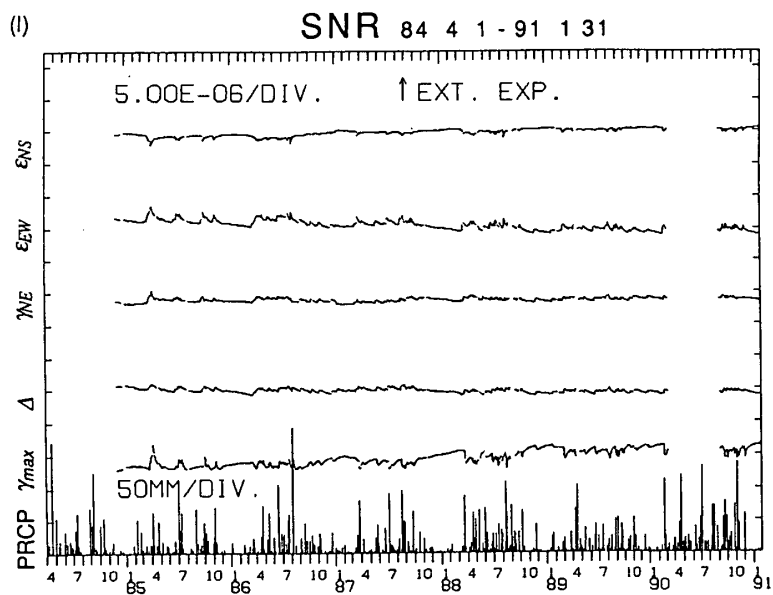
(f) 沢内 (SWU)



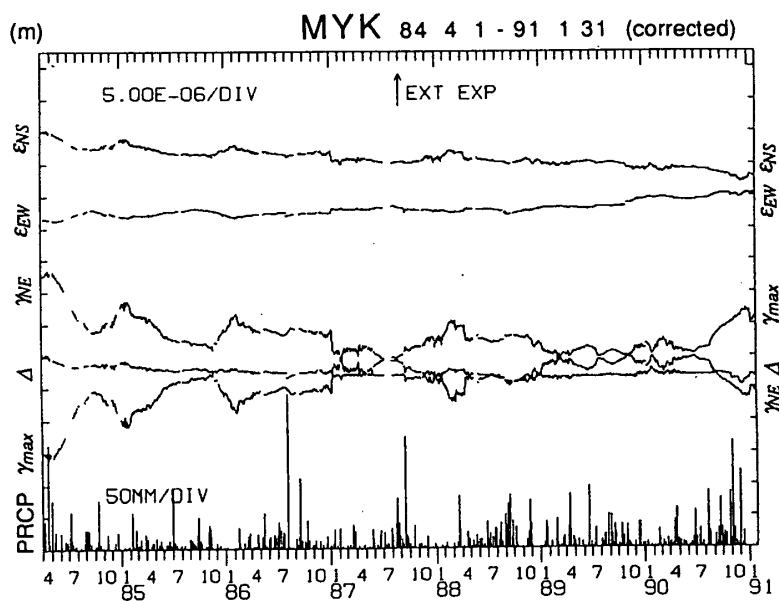
(g) 姫神 (HMK)

第2図 つづき

Fig. 2 (Continued)



(l) 三陸 (SNR)



(m) 宮古 (MYK)

第2図 つづき

Fig. 2 (Continued)

